

	第34回平和祈念コンサートを開催
と き	8月6日（木） 午後6時～8時
と こ ろ	練馬文化センター（練馬1-17-37）
区は、6日（木）、練馬文化センターで平和祈念コンサートを開催した。 平和祈念コンサートは、音楽や戦時体験の講演をとおして、平和の大切さ、尊さに思いを寄せ、恒久的な世界平和を祈念する機会として、平成4年度から毎年開催しており、今年で34回目を迎えた。当日は1,037名の方が来場された。 戦時体験講演では、1歳8か月のときに広島で被爆された綿平敬三さんをお招きし語っていただいた。来場者からは、「平和について考える機会になった」といった声が寄せられた。 コンサートでは、チェロ奏者の長谷川陽子さんが奏でる美しい音色が会場を包み、集まった聴衆を魅了した。	



▲コンサートの様子

【戦時体験講演者】

綿平敬三^{わたひらけいぞう}…1歳8か月のときに広島で被爆。被爆者練馬の会会長として、平和に関する講演活動等を精力的に行っている。

《講演内容（抜粋）》

- ・ 昭和20年、1歳8か月のときに、広島市内で、母親とともに被爆。
- ・ 自身は幼少であったことから、当時の被爆の状況や被爆した方の証言を『広島原爆戦災誌』で紹介。
- ・ 自身と母親に大きな怪我などはなく、実家に帰り、5歳まで母親と一緒に暮らしていた。
- ・ 母親からの仕送りはあったものの、中学校、高校時代まで貧しい生活が続いていた。
- ・ 高校を卒業後、就職を契機に生活は安定したが、原爆で失ったものはあまりに大きかった。
- ・ 父親と弟を亡くした。5歳で母親と別れた後、90歳で亡くなるまでの、65年間の母親の人生を知ることでもできなかった。
- ・ 唯一、亡くなる5年前に母親が残した1通の手紙だけが、自身と母親をつなぐものだった。
- ・ 令和6年12月、ノーベル平和賞が、原爆被爆者と日本被団協に与えられた。この栄えある賞は、被爆者だけが受けたものではない。唯一の戦争被爆国で一緒に暮らすみなさんに、支えられてきたからこそだと思う。
- ・ 平和を思い、自身のような状況にならないために、このような被害を繰り返さないために、核兵器のない世界の実現を願っている。



▲講演の様子

【平和祈念コンサート出演者】

長谷川陽子^{はせがわようこ}（チェロ）

…日本を代表するチェロ奏者の一人。桐朋学園大学を経て、シベリウス・アカデミー（フィンランド）を主席で卒業。ロストロポーヴィチ国際チェロ・コンクール特別賞、第9回齋藤秀雄メモリアル基金賞等受賞多数。桐朋学園大学音楽学部教授。

【問い合わせ】練馬区 総務課 総務係 電話：03-5984-2600